

URGCC-Advancedマトリクス

【大学院教育プログラム学習教育目標とURGCC-Advanced学習教育目標との対応関係】

		法務教育プログラム		
		専門性	創造性	倫理性
URGCC-Advanced学習教育目標		専門分野に関する高度な知識、技能、思考法を体系的に身に付ける。	知識、技能、思考を独創的・創造的に発展させ、活用することができる。	高度な倫理性を身に付けるとともに、社会的責任の熟慮を欠かすことなく、主体的に行動することができる。
大学院教育プログラム学習教育目標	法科大学院修了者の備えるべき法曹に必要なマインドとスキルについて、「地域にこだわりつつ世界を見つめ、性の多様性を尊重する法曹」の養成という本研究科の教育理念を反映させている。まず、法曹に必要なマインドとして、(1)法曹としての使命・責任の自覚、(2)法曹の求められる倫理原則の理解と、実践できる高い倫理観を涵養する。また、法曹に必要なスキルとして、以下の①～⑨の知識及び能力を修得させる。 ①基礎的法的知識 ②応用的、先端的な分野の専門的な法律知識その他の学識 ③法情報調査力・・・必要な情報を迅速に調査する能力 ④事実調査能力・事実認定能力・・・情報を収集する能力及び資料を分析して事実関係を把握する能力 ⑤法的分析・推論能力・・・解決案策定に向けて法的分析・推論を行い、法的結論を導き出す能力 ⑥創造的・批判的検討能力・・・法制度を問題解決の視点から批判的に検討し、創造的な提案を構成する能力 ⑦法的議論・論述・説得能力・・・法的議論を展開し、理論的、説得的に意見表明できる能力及び解りやすく伝える表現能力 ⑧コミュニケーション・弁論能力・・・面接・交渉等に必要コミュニケーションの技法や弁論能力 ⑨問題解決能力・・・上記①～⑧の能力を駆使し、問題を発見し、解決策を策定、提示、推進する能力	○	○	○
		(URGCC-Advanced学習教育目標と関連があるとして、○印を付けた理由) 法曹に必要な「マインド」(マインド①・②)を涵養することで「倫理性」を身に付け、法情報調査力、法的分析・推論能力、創造的・批判的検討能力、コミュニケーション・弁論能力及び問題解決能力(スキル③・⑤・⑥・⑧・⑨)の修得により「創造性」を身に付け、基礎的・専門的法的知識、その他事実調査能力・事実認定能力及び法的議論・論述・説得能力(スキル①・②・④・⑦)の修得により「専門性」を身に付ける。		